口永良部島の火山活動解説資料（平成 23 年 10 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

火山活動は静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ただし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要です。

平成 21 年 10 月 30 日に噴火予報（噴火警戒レベル１、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○　10 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図１、図４）

新岳火口内では噴気活動が続いており、白色の噴煙が火口縁上概ね 200m以下の高さ（最高高度は 400m）で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図１、図３）

火山性地震の月回数は 49 回（９月：24 回）でした。火山性地震の震源はこれまでと同様、主に新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

火山性微動の継続時間の月合計は 51 分（９月：13 分）でした。

・地殻変動の状況（図１、図２）

GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜－SDW（産）の基線で 2010 年９月頃から伸びの傾向が続いています。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/）や気象庁ホームページ（http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 11 月分）は平成 23 年 12 月８日に発表する予定です。
※この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学及び独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

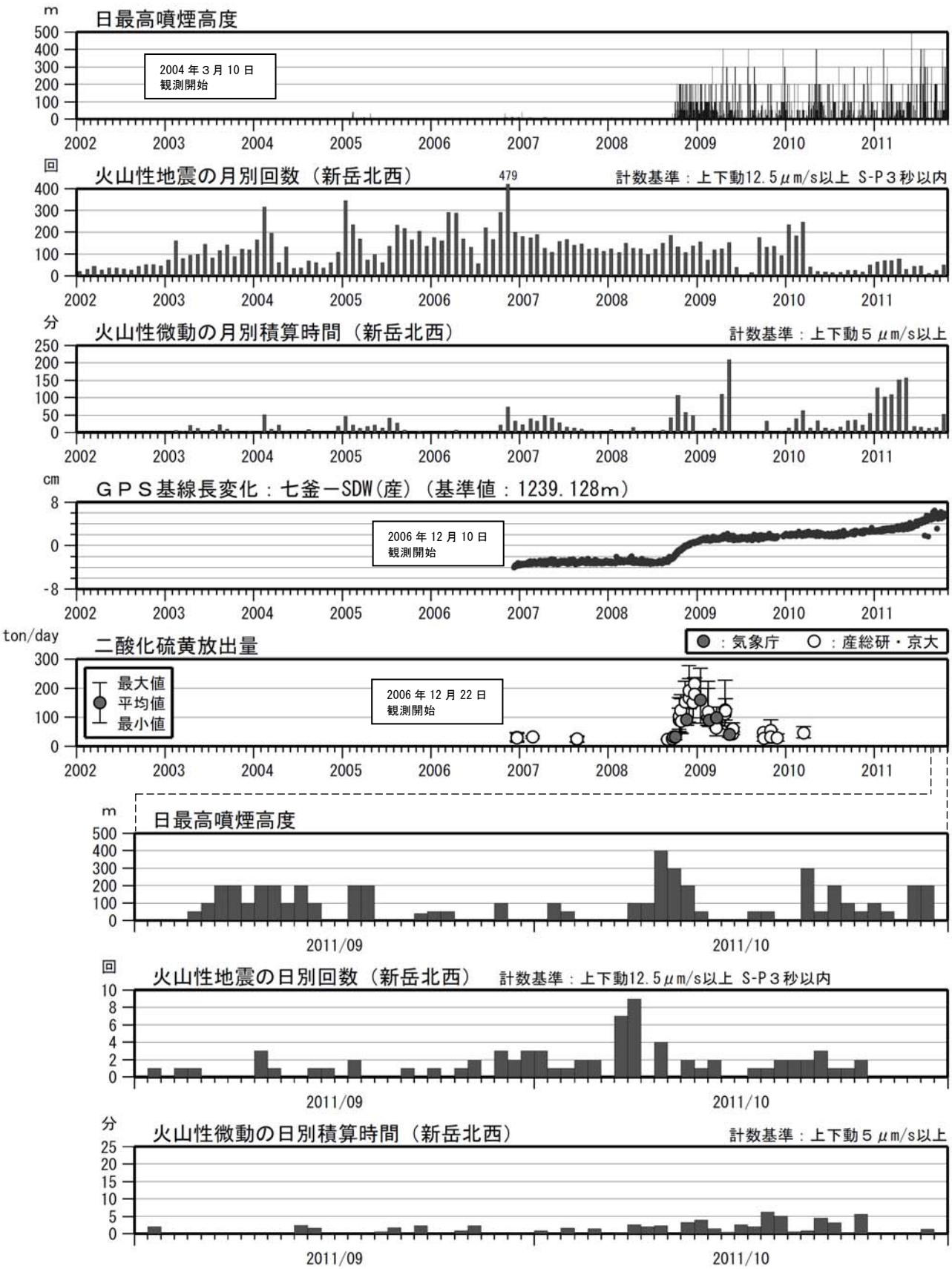


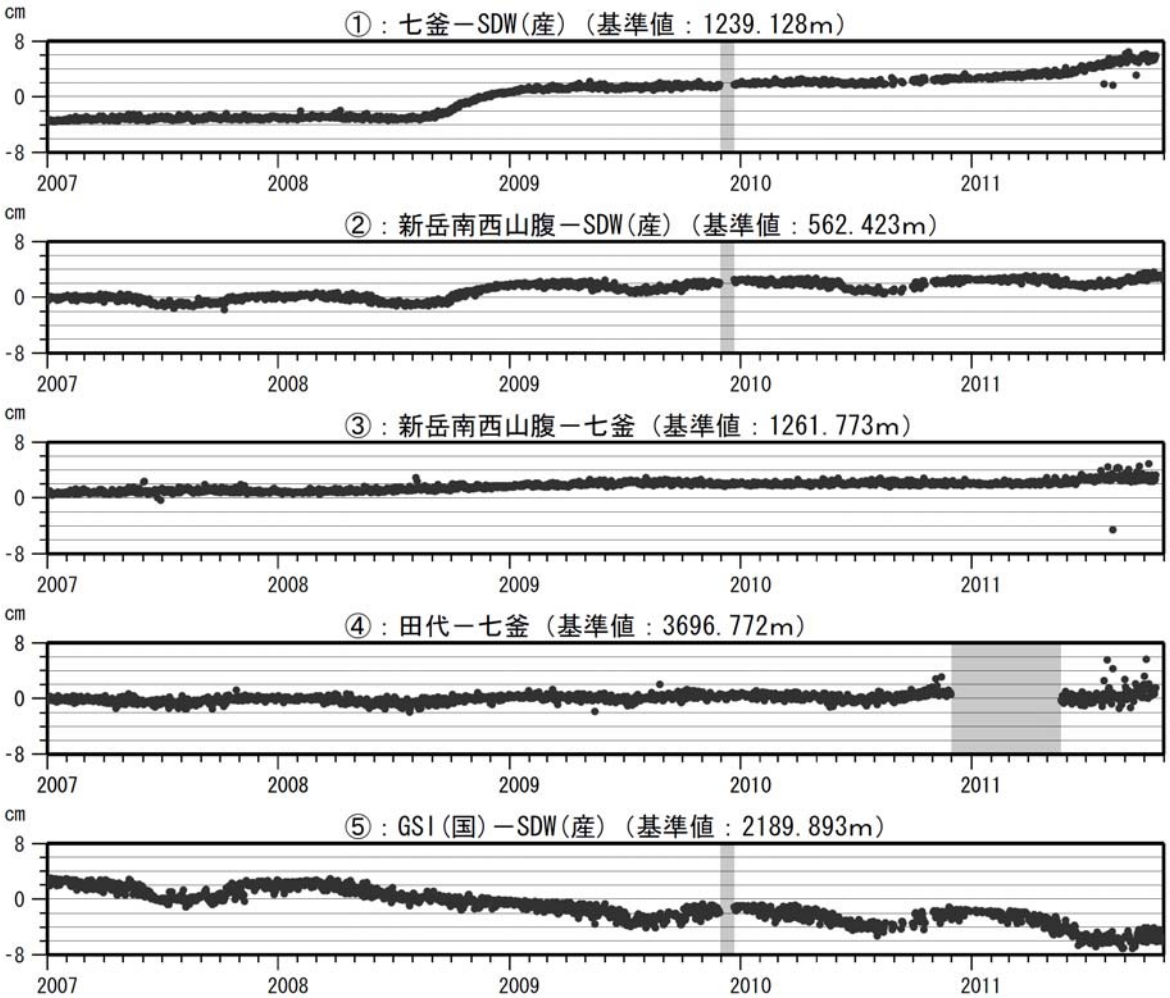
図１　口永良部島　火山活動経過図（2002 年１月～2011 年 10 月）

＜10 月の状況＞

・新岳火口内では噴気活動が続いており、白色の噴煙が火口縁上概ね 200m以下（最高高度は 400 m）で経過しました。

・火山性地震の月回数は 49 回（９月：24 回）と、やや増加しました。

・火山性微動の継続時間の月合計は 51 分（９月：13 分）と、やや増加しました。



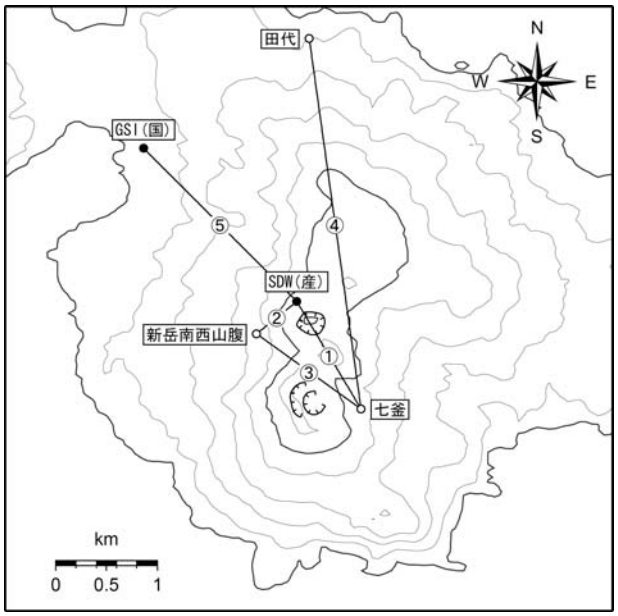
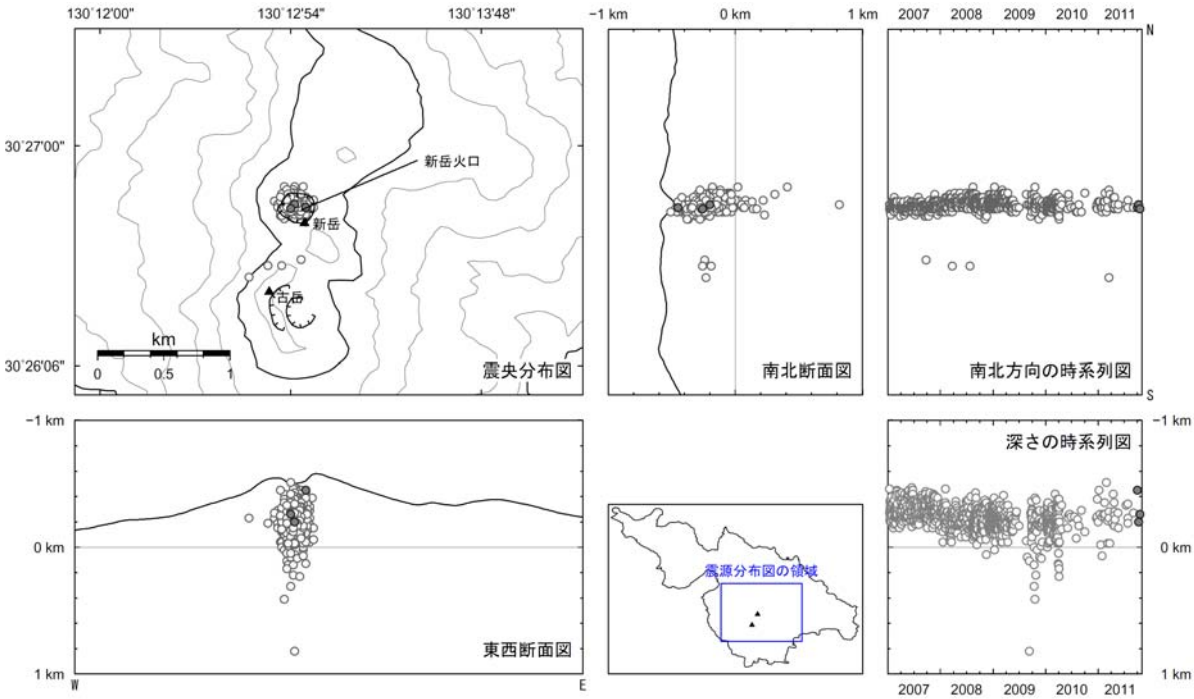


図２　口永良部島　GPS 連続観測による基線長変化（2007 年 1 月～2011 年 10 月）

GPS 連続観測では、新岳を挟む七釜－SDW（産）の基線①で 2010 年 10 月頃から伸びの傾向が続いています。

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（産）：産業技術総合研究所
＊灰色の部分は機器障害のため欠測を示しています。



● ：2011 年 10 月の震源
○ ：2007 年 1 月～2011 年 9 月の震源

図３※　口永良部島　震源分布図（2007 年 1 月～2011 年 10 月）
＜10 月の状況＞
火山性地震の震源はこれまでと同様、新岳火口直下のごく浅いところに分布しました。

図４　口永良部島　噴煙の状況（10 月 10 日、本村西遠望カメラによる）

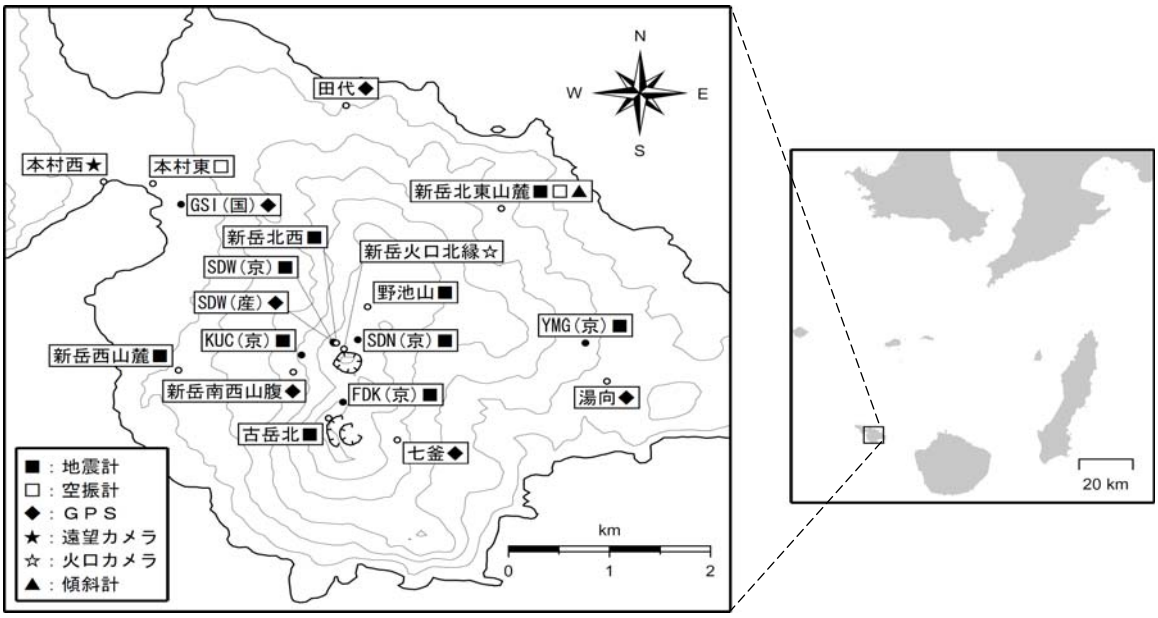


図５　口永良部島　観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（京）：京都大学、（産）：産業技術総合研究所